

## サッポロスマイルトーク 動物園から考える札幌の未来 円山動物園 動物科学館ホール

### (太細真弥さん)

お待たせいたしました、会場の皆様こんにちは。そしてYouTubeをご覧の皆様こんにちは。  
ただいまからサッポロスマイルトークを始めさせていただきます。  
このサッポロスマイルトーク、札幌市役所のお仕事に関するさまざまなテーマについて、市民の皆様と秋元市長が語り合うトークイベントとなっております。  
開催は今年で8年目になりますけれども、いかがでしょうか、サッポロスマイルトーク、これまでご覧いただいたことがあるよ、という方いらっしゃるでしょうか。  
ありがとうございます。この会場の皆様は初めてご来場いただいたということで、これを機にぜひ覚えていただければ嬉しいなと思います。  
YouTubeをご覧の皆様の中にはもしかしたらこれまでのスマイルトークをご覧いただいた方もいらっしゃるかもしれませんが。

本日は動物園から考える札幌の未来をテーマに、皆様と一緒に動物園について考えていければと思っております。

私、本日司会進行を担当させていただきます、フリーアナウンサーの太細真弥（ださい まや）と申します。  
よろしくお願いいたします。  
それでは皆様に普段のご活動やプロフィールなど、自己紹介をお願いしたいと思います。  
まずは小菅正夫（こすげ まさお）さんです。

### (小菅正夫さん)

私の自己紹介ですけど、私が生まれたのは南3条西7丁目です。  
それで子どもの時からこのあたりはずっと私の遊び場で、小学校は西創成小学校で坂下グラウンドが私の運動会の会場でしたね。  
僕は生まれたときから生き物が好きで、動物園もよく来たけど、円山公園の近くで虫取りをしたり、色んな生き物を取っては連れて帰って自宅でたくさん飼ってましたね。  
それがこうじて、大学が終わる頃に旭山動物園に勤めさせていただいて、そこでは定年退職するまで本当に動物漬の幸せな仕事でした。好きなことばかりやっていた。  
定年退職してから、僕はずっと動物園の中の動物しか見てこなかったの、これでは本物の動物はわからないだろうということで、自然界の動物を見に、主にアフリカとか東南アジアとか、そういう所に行って動物を見て過ごしていましたが、たまたま円山動物園のことを少し手伝ってくれと言われて。  
動物園ですからね、私大好きなので、さっそくということで2015年からこちらでお世話になって現在に至っております。  
本格的な動物園条例を、市長さんをはじめ皆さんの努力で作っていただいて、私としては本当に感謝しかないですけども、今日は改めて会場の皆さんと一緒に動物園とは何かということを考えていければと思います。  
よろしくお願いいたします。

### (太細さん)

小菅さんは旭山動物園の元園長ということでご存じの方も多いかもかもしれません。  
小菅さんには動物園条例とは何かですか、動物園で行っている取組みなどについて具体的にお伺い出来ればと思っております。  
よろしくお願いいたします。

では続きまして遠井朗子（とおい あきこ）さんです。

### (遠井朗子さん)

酪農学園大学の遠井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。  
私は大阪出身なので、動物園といっても阪神間のいろいろな動物園には馴染みがありますが、円山動物園はこちらに来てから、というところで、よそ者なのですけれども、入れていただいてありがとうございました。  
私自身の研究は、国際環境法という分野で、環境条約の遵守や実施について勉強してきました。  
ここ数年は、特に野生動植物の国際取引の規制に関するワシントン条約について、締約国会議にも行きながら

遵守や実施に関する問題について調べていたところでした。

そういうことでお声を掛けていただいて、（動物園条例）検討会に入れていただきました。

小菅先生をはじめとして動物園の現場を知り尽くした方々とか、行政法のベテランの研究者とか、市民委員の方々等、いろいろな方と一緒に検討する機会をいただいて、私自身にとっても非常に良い勉強になったと思います。

本日は動物園条例が想定している動物園像について、特に生物多様性の危機に関する最近の国際的議論の動向であるとか、生物多様性保全と動物福祉の融合というものが環境条約においてどのように扱われているのかということについて、少しご紹介させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

### （太細さん）

今お話の中にもありましたとおり、遠井先生には生物多様性の現状ですとか、種の保全というところについてお伺いしたいと思っております。

では続きまして佐藤広大（さとう こうだい）さんです。

### （佐藤広大さん）

北海道札幌市清田区出身のシンガーソングライター佐藤広大と申します。

現在円山動物園のPR大使も務めておりまして、動物園の閉園の時に、私の楽曲「手をつなごう」も流れております。

主にアーティスト活動を行っていますが、アーティスト活動の傍ら、子ども達に向けたボランティア団体「あおぞらプロジェクト」という活動もしております。

北海道に根づけるように、北海道に密着して、普段FM north waveでラジオ番組もやらせていただいたり、「男旅」という番組も出演させていただいたり、幅広く北海道に根づいてこれからも活動していきたいと思っております。

今日はそんな「あおぞらプロジェクト」での動物園との関わりを、後ほどお話しさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

### （太細さん）

佐藤さん、本当に北海道を中心に活躍していただいています。

動物園で行っていますご自身の活動や、今後の展望についてお伺いできればと思っております。

よろしくお願いいたします。

続きまして、鈴木 なお（すずき なお）さんです。

### （鈴木なおさん）

私は北海道大学獣医学部5年生の鈴木なおといいます。

今回は「命と自然の学生基地」という学生団体の代表としてお招きいただきました。

私達の団体は、将来、一人のプロとして社会に出て行くその前に、学生のうちに学生が出来ることを主体的に取り組もうというコンセプトでさまざまな活動を行っています。環境保全の取組みや、円山動物園でボランティア活動などもさせていただいています。

本日は学生の目線からいろいろなお話をさせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

### （太細さん）

鈴木さんには、今名前がありました学生団体のお話や、ボランティア活動、動物福祉についてお伺いできればと思います。

それではここで、主催者挨拶といたしまして、札幌市の秋元克広（あきもと かつひろ）からご挨拶させていただきます。秋元市長お願いいたします。

### (秋元克広市長)

皆様こんにちは。札幌市長の秋元でございます。

今日はスマイルトークにお集まりいただきましてありがとうございます。

YouTube をご覧の皆様もありがとうございます。

先ほど司会の方からお話ありましたように、年3回ほどになりますけれども、札幌市政に関わることを、いろいろな関わりを持たれた方と、今日のようにいろいろなお話をさせていただいております。

普段ですと、チ・カ・ホのように公の場といいますか、ふらっと歩いている方も立ち寄って聞けるような場所で開催しております。たまたま通りかかった方も、聞いていただいて「こういうことに取り組んでいるのだ」ということを知っていただくきっかけにしようということです。

今日は動物園から札幌の未来を考えるとということがテーマになりましたので、ここ円山動物園で初めて開催をさせていただきました。

限られた空間ということでもありますので YouTube での配信でもご覧いただきたいと思っております。

先ほど司会の方からもお話がありましたように、今月の6日に、札幌市の動物園条例が可決されました。

これは日本で初めての取組みということになります。

これまで、海外ではいろいろな動物の福祉ということで、生物多様性の保全ですとか、環境問題への取組みということが、動物園の役割として既に運営をされていますけれども、残念ながら日本には動物園の役割を明確にした法律というのが無く、市が法律を作るわけにはいきませんので、条例という形で動物園の役割、あるいは行政、それから市民の皆さんとの役割や関わり、こういったことを条例として制定したところ です。

今、地球の環境問題は大変危機的な状況になっていて、生物多様性の危機ということをいわれております。

そういった中で動物園がどのような役割を果たし、また札幌が、国内はもとより、世界にどう貢献をしていけばいいのかということを考えるきっかけになればと思っております。

今日はいろいろな方々とお話をさせていただく中で、皆さんにも一緒に考えていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

### (太細さん)

このサポロスマイルトーク、今回初めて動物園での開催ということで、皆さまいかがでしょうか、人生で初めて動物園に来たのは何歳くらいでしたか。

私は、人生初めての動物園はここ円山動物園で、3歳のころに家族と来ました。

今日園内を見ても、たくさんのお子さんたちでにぎわっていましたが、会場の皆さまも一番最初に訪れたのは、子どものころだったのではないかなと思います。

それだけに、この動物園という場所は、皆様にとってさまざまな思い出が詰まっている場所なのではないかなとも思っております。

今回、ゲストでお越しいただきました佐藤さんと鈴木さんのお二人も、動物が大好き、動物園が大好きということで、お二人にまずお話を伺いたいと思います。

佐藤広大さんは、ご自身のおおぞらプロジェクトを通じて、円山動物園ではさまざまな活動をし、本当に深く関わりがあると思います。

少しテーマは大きいですが、佐藤さんにとって動物園はどんなところでしょうか。

### (佐藤さん)

動物園はですね、札幌市内中心にある非日常を味わえる場所。

小さなお子さんもお年寄りも、幅広い年齢で、いつでも非日常を体感できる場所ではないかなと思っておりますし、僕自身本当に動物が日頃大好きで、小さい頃から好きです。

例えば、僕のライブの時に、初めましての方が多くライブもありまして、その時は結構緊張感が張り詰めているのですけれども、動物の話をすることによって結構その場が和んだりするのですよね。

そういったところでも、動物には頼らせていただいております。

例えばカンガルー、いらっしゃいますね。円山動物園のカンガルー。

生まれたときのサイズって、ものすごく小さいのですよ。1センチくらいといわれています。

ただお腹の中にいるものですから、いつ生まれたのかがわからないと。お腹から顔を出したときに誕生日と決めているらしいのですよね。

そういうふうに飼育員の方にもお伺いしましたし、質問しても快く、動物に関してこうだよ、ああだよ、と喜んでくださるので、本当に動物の知識も蓄えられる、僕にとって本当に大事な場所になっています。

### (太細さん)

本当に動物は共通して楽しく、思い出もあつたり、話せる話題というところもあると思いますし、大好きがこうじて、今いろいろな活動をなさっているということですね。

鈴木なおさんにお伺いしたいのですが、学生団体[命と自然の学生基地]のボランティア活動を通じて、円山動物園とも、深くかかわっていらっしゃると思いますし、学業やボランティア活動の合間に、全国各地の動物園を巡っていらっしゃるという話もさきほど伺ったのですけれども、同じ質問をさせていただきます。

鈴木なおさんにとって、動物園はどのようなところでしょうか。

### (鈴木さん)

私にとって動物園は、そうですね、野生への入り口ですかね。

小さい頃から私も家族に連れて行ってもらって動物園ですごく楽しい経験をしてきました。

動物園で動物を見ると自分と違う生き物ですごいなとか、かっこいいなとか、かわいいなとかいろいろなことを思うと思うのですが、そういうところから野生のことや自然のことをもっと知りたいなという気持ちが芽生えて、そこから環境保全への取り組みだったり、何か自分に出来るのではないかなということが、今大人になって得られてきているので、そういう小さい頃からの入り口だったのではないかなといつも思っています。

### (太細さん)

そうですね、小さいころはとにかく楽しい場所、でもすこしずつ大人になっていくとまた目線だったり、考えが変わってきて、そこから自分に何が出来るのだろうと考えさせられる場所にもなってきたりしますよね。そのお考えが、今の活動にもつながっているのだなと思います。

先ほど、秋元市長もお話されたとおり、今年6月に[動物園の役割とはなにか]を定めた動物園条例が制定されました。

この動物園条例、会場の皆さまで聞いたことあるよという方ぜひ手を挙げていただけませんか。当てたりしませんので。あ、いらっしゃるね、3分の1くらいの方が手を挙げてくださっていますね。ありがとうございます。

関心を持ってくださっている方も多いニュースかと思えますけれども、今まであまり知らないよという方も、今回のお話から、どんなものなのか、基本から知っていただけると嬉しいなと思っています。

それではここで条例の検討に携わっていた小菅さん、遠井さんにお話を伺っていきたいと思います。

まずは小菅さんに、動物園条例、どのようなものなのかというところを教えてくださいませんか。

### (小菅さん)

動物園条例、先ほど市長からも説明ありましたが、こういう本格的な動物園条例は日本で初めてです。しかも動物園法が無い日本ですから、今の時点で全国の動物園の人達が何か確認しよう、対応しようといったら札幌市動物園条例しか無いという状態です。

ではなぜこれが出来たのかというと、皆さん記憶に新しいと思うのですが、マレーグマのウッチーに悲しい出来事があって、それで円山動物園自体が非常に辛い状況になった時に、どうやっていけばいいのかというと、体制をきちんとすればいいということだけで、例えば、その当時すぐに人員の配置だとか、獣医師の配置だとかいろいろなことをやってきましたよ。

でもそういうことって絶対に忘れるじゃないですか。人間ですから忘れてしまうんですよ。

ここで絶対に忘れてはいけないのが、「動物園とは何なのか」というところだと思います。

事故の対策として一応人員とか体制のことはやりましたけど、でも、あのことがあったからこそ、私は今将来に向けて非常に大きな柱を作っていただいたと思っています。

7年前のあの時に犠牲となった動物たちに、この条例が出来たことによって私は「君たちの死は無駄になってないよ」と、ようやく言えるかなという気がします。

ではこの条例を検討する委員会でどんな議論になったかということ、実はお隣の遠井先生もいたのですが、これはすごい委員会でしたよ。もうとにかく誰も止まらない、話し始めたら。とにかく議論が進むに連れて沸いて沸いて。

私自身びっくりしたことが「動物園」という用語ですよ。

「動物園」って皆さんそれぞれイメージあるでしょうけれど、それを皆が集まって話し合う時には「動物園とは何か」というところからまず決めなくてはならないというレベルなのですよ、実は。日本中が。動物園ですら統一されていない。

また「野生動物とは何ですか」と、その条例で使われる用語の定義を決めなくてはならない。

改めて考えると、そういうふわっとした、いい加減という申し訳ないけれど、そんな感覚の中で日本の動物園というのはずっと進んできたのだな、と思いながらこの検討会にいました。

ここで本当に皆さんの意見を戦わせて、出来上がったものを見ると、本当に将来の円山動物園がぶれること無く、まさに動物園の役割、近年どんどんどんどん変わってきた理念とか役割というのを明確にしながら、将来に向かって本当に真っ直ぐに伸びた軸、これが生物多様性の保全、さきほどちょっと遠井さんもおっしゃっていましたが、そうなったと思います。

また、そのベースは何かというと、やはり動物が幸せに暮らして命をつないでいく場所。

ベースを良好な動物福祉に置いて、目的はとにかく生物多様性の保全にいく、進むということを明確にしたのが、この動物園条例ですね。

私自身も皆さんと議論させていただいて本当に勉強になりました。

ましてそれが札幌市という大きな都市できちんと議会を通して、認めていただいたというのが、私はずっと動物園人ですから、動物園人としては非常にありがたいことだな、と思っています。

### （太細さん）

この条例のことを知らずに初めて聞きました、という方もいらっしゃると思うのですよね。これは何を定めたものなのかというのを少し具体的に教えていただくことは可能ですか。

### （小菅さん）

動物園とはまず何かということ为先ほど話したのだけど、たとえば私の記憶にあるのが、デパートの屋上に犬や猫などを飼っているペットショップがあって、そこの看板に「わんにゃん動物園」と書いてある、これは動物園ではないだろうと思って。

それからいろいろな所で「動物園」と使われているのだけど、明確に「動物園とはこういうものですよ」ということが規定されていない。

それは何かというと、この会議で決まったことなのですが、「動物園とは、主に野生動物を飼育してその繁殖を図ってその生態というものをしっかり伝えていく」、そういう場所だということが規定されている。

では「野生動物」とは何かと、これも実はあまり決まっていない。野原を走っているのが野生動物というのわかりますよね。

では、動物園の動物は野生動物か、ということも議論になる。人から食べ物をもらって、そして人に守られて暮らしている。これは家畜と同じじゃないのかという議論もあるわけです。

でも、この条例の中で明確にうたっていることは、動物園で飼われている野生由来の動物は野生動物である、と。

ですから、動物園で暮らす動物と野生下の動物が遺伝的な交流を図っていくのは当然のことだと、野生動物の保全に関わるのも当然のことだというようなことがしっかり書かれている、そういう条例なのです。

### （太細さん）

その動物園の定義が、どこを見渡してもないという状況から、ではみなさんで議論をして定めようというかたちで、今回決まったということなのですね。

ありがとうございます。

遠井さんにお伺いしたいのですが、この条例の特徴といえいいのでしょうか、特別な部分、特にみなさんが力を入れて決めた部分というのはございますか。

### （遠井さん）

私のほうからは2点ほど、補足をさせていただきたいと思います。

まず1点目は、先ほど秋元市長も、小菅さんもお話されたように、動物園とは何かという理念を、条例で法的拘束力のある形で定めたということです。

今ご説明があったように、動物園の理念とは、野生動物を飼育して、累代飼育する事により、生物多様性保全に寄与すると同時に、動物福祉を実現することである、と。

実はこれは先ほどからお話があるように、国内法では全く定義されていなくて、国際的な動物園に関する組織として、世界動物園協会(WAZA)というところがあるのですが、そこがこの20年ぐらいかけて、いろいろなガイドランス文書の中で明らかにしてきたものです。

この理念は、いわゆる国際的な業界団体では、ある程度共有されていて、動物園の現場の方もそのような考え方は理解していらっしゃると思いますが、それだけではなく、EUやイギリス、お隣の韓国などでは既に法制化をされていて、動物園の設置の許可要件としてそれを入れてきているのです。

条例は、そういう外のを参照しながら、なおかつ現場の意見を聞いて定めていったというところがあります。

このことにどういう意義があるか、ということなのですが、まず条例を定めるという事は、例えその園長さんや市長さんが変わられて、やはり「儲けましょう」とか「エンタメ重視でいこう」といっても、それはもう出来ないという事なのです。こういう理念に基づいてやる、という枠をはめているという事となります。

また、これまで動物園は身近な憩いの場、というお話が先ほどからありましたけれども、財政上の理由で、そういう事が維持できなくなってきている自治体が今、全国各地でぼちぼち出てきているのですね。

そういう事が遅かれ早かれ、もしかすると、札幌でも起きるかもしれないという段階で、それに先立って、国際的に合意をされた世界標準の動物園をやっていくという方針を決めたというところに、非常に重要な価値があると思います。

また、条例を法律より先に決めていくというのは、過去の公害規制などでもあった事で、地域の実情に合わせてやるという事はあるのですけれども、今回の動物園条例は、必ずしも地域の実情に合わせてやったということではなくて、世界標準を先取りするという意味でも、これまでの法律に先立つ条例という中でも、非常に特色があるのではないかと、思っております。

理念や原則と言っても、この条例は理念条例という、いわゆる原則だけを定めたものでもないのです。

円山動物園に関しては、どうやってそれを実現するのかという具体的な制度をかなり細かく詰めて書いていますし、またそれを実現するための、人や制度、予算なども、きちんと配置をするというところまで書き込んであるので、これを具体化するための条例であるというのが1点目です。

2点目は、これは委員会の中の議論でもかなり意見が分かれて、パブコメ（パブリックコメント）でも意見が多かったところですが、民間事業者の取組みをどうするのか、と。

これに関しては、直接規制はちょっと難しいということで、途中で通告くらい出来ないかという話もあったのですが、結局そこまでは中々出来ずに、今回は、認定動物園制度という制度が入っています。

こちらに関しては、パブコメでは、ちょっと手ぬるいのではないかとのご意見もあったのですが、民間事業者に対し、直ちに市の動物園と同じ水準でやれというところまで強制はしてないけれども、もしそういうことをやるのであれば、市が様々な援助をしますよ、という制度なのです。

これが上手く機能するためにどうしたらいいのかというと、動物園が今までどおりエンタメ重視でも、メディアも取り上げて、お客さんもいっぱい来るのであれば、そういうビジネスモデルを変えようとは思わないですよ。

でも、それはちょっとやはりおかしいな、とか、時代遅れかもしれないというように、社会の認識が変わってくると、事業者も、だんだんとそういうやり方は出来ないなということになってくるだろう、と思われれます。それを期待されていて、そういう時には、市のこれまでの取組みを踏まえて、分け隔てなく協力をしながら、全体としての水準を上げていこうというものです。

ですから、これは確かに規制という意味ではないけれども、最近政策手法の中にナッジ(nudge)という、後ろからちょっと後押しするというやり方があるのですが、これはある意味ナッジ的なものといえるのかな、と。それが動か動かないかは、これから私たち市民がそういう認識を持って、外から見てこれはいいのか悪いのかという評価が出来るようになっていくことで、変わっていくのではないかと、いう、その辺が特色かなと思います。

### (太細さん)

今、遠井さんの言葉の中にもありましたけれども、エンタメ重視の動物園というところと先ほどスライドで映っていたのですが、動物福祉という言葉が見えたかと思えます。

条例が定められる事によって、このエンタメ重視、動物の福祉というところがかなりキーワードになってくる

のかなと思って聞いています。

この後、動物の福祉、種の保全ということについても伺いたいと思いますので、そこでお話いただければと思います。

ここまでの話を聞きまして、札幌市での動物園条例の制定について、ぜひ秋元市長のお言葉を伺いたいのですが、いかがでしょうか。

### (秋元市長)

この条例の制定をしていこう、動物園というものをどう考えるのか、という事をもう一度考えていこうというきっかけは、先ほど小菅参与からお話があったように、残念ながら2015年にマレーグマの亡くなる事件ですとか、いくつか動物が死亡するという事案が続きました。

それまでの動物園の在り方は、先ほどの鈴木さんや佐藤さんのお話のように、非日常であったり、野生生物という事で野生の動物、例えば日本では見られないような動物もそこにいれば、動物さえ展示すれば動物園なのだ、ややもするとそういう事だったと思います。

財政的なものでも、動物園の運営というのはなかなか厳しいので、どんどんお金をかけられないような状況というのが、全国各地でありました。

そういった中でひとつのきっかけ、動物園というものがどういう役割なのだというふうに変わるきっかけというのは、やはり旭山動物園の行動展示だったと思うのですね。

それまでの動物園というのは、珍しい動物がいて、そこに動物さえいればいいのだと。

そういう事ではなくて、本来動物が生活している日常的な環境や姿、それを実現して動物の行動展示というふうにやりました。

札幌も、そこに近づいていこうとやりましたけれども、一方で入園される方をどんどん増やしましょうという風に力をつい入れてしまったという事です。

そういう意味では本来の動物園、動物の福祉という議論が先ほどありましたけれど、そういった視点がやはり欠けていて、残念ながら動物の死という事になって、それを反省していこうと。

まずは、動物園にいる動物達が快適に暮らせる環境、そのためには、ハード的な環境だけではなく、専門的な知識を持った飼育員や獣医師がいるとか、そういう体制全体含めてやっていかなくてははいけないよねという事で、いろいろな取組みをしてきました。

それを継続的に続けていくために、条例というものを定めていきたいと思いますというのが、先ほどあったお話です。

ここからは、円山動物園からこの動物の福祉という観点で動物園の役割を、条例が出来たら終わりという事ではなくて、現実的な姿として環境問題や環境教育の拠点でもありますし、そういった事を国内外に発信していく、市民のみなさんと一緒にそこをどんどん発展させていけたらいいなと思っております。

### (太細さん)

本日、ご覧いただいている皆様の中にも、もしかしたら、動物園で動物が檻の中に入っていて、なんだかかわいそうだなと思った事がある方もいるかもしれないですね。

今、市長のお話にもあったように、エンタメ性ですとか、お金を儲けるための施設という考え方を変えなければというところ、この動物園条例が制定された事で、その点がしっかりと変わっていくのかなと聞いていて思います。

動物福祉というところに次はスポットをあてていきたいなと思います。

この動物園条例に「動物園の活動は良好な動物福祉を確保する事を基本理念とする」という記載があります。鈴木さん、学生同士で動物福祉について学ぶ機会を設けたりしていらっしゃるという事で、この「良好な動物福祉」というのはどういった事だと思われませんか。

### (鈴木さん)

動物福祉というのは、動物がいかに幸せかという考え方になります。

福祉というところちょっとイメージがつきにくいのですが、動物福祉は動物がどう幸せに、その動物らしく生きているかという事になると私達は考えていて、動物が生き生きしている姿ですね。

それが良好な動物福祉であるのですけれど、動物が生き生きしているという事はその動物自身の健康にもつながります。

動物自身の健康だけではなくて、元気な動物、生き生きした動物を見ていると、私もそうですけど、すごく嬉しい気持ち、わくわくした気持ちになると思うのですよね。

つまり、動物福祉を向上させるという事は、動物自身にとってもプラスですし、動物園の来園者さん、お客さんにとってもより楽しい空間ができるという2点プラスの面があるのではないかなと思っています。

### (太細さん)

この良好な動物福祉、動物が生き生きと、過ごしやすい空間で過ごせる動物園ということだと思いますけれども、小菅さん、円山動物園ではこの良好な動物福祉を確保するためにどのような取組みをされているのか、ぜひ教えていただきたいと思っています。

### (小菅さん)

動物福祉というのは、今、鈴木さんからいろいろお話ありましたけれど、福祉という言葉聞いた途端に、「幸せな状態」というふうに、みなさん思ってしまうませんか。これはみんなそう思っているのですよ。人間の福祉はそうだから。

ところが、先ほど遠井先生からのお話のとおり、我々の基準というのは国際基準と合致したような基準を作っていますから、そこで動物福祉-Animal welfare-というのは、どういうものかという精神的、肉体的状態をいうのですよ。

動物福祉というと、今の置かれている状態、心と体の状態をいいます。だから、わざわざ上に「良好な」とつけるのです。

この状態を、良好にしていく、そういう事をやっていきましょうということです。だから「良好な動物福祉」と書いてあるでしょう、そういう意味です。

基本的に、動物福祉とは何かということ簡単な話でいうと、例えば、チンパンジーが1頭でいたとします。これは良好ですかね。

チンパンジーは、みなさんご存じで、オス、メスだいたい同数で、群れで30頭とか50頭で暮らしているでしょう。普通群れで暮らしている動物を、それを1頭で飼う、これはもう、劣悪な動物福祉です。

普通通り、円山のように、円山のチンパンジーは9頭いるのかな、群れで暮らしている。これが、もっと数多い方が、良好ですよ。

では、オランウータンが例えば5頭一緒に暮らしていました。これは良好でしょうか。

これは駄目です。

オランウータンは単独で暮らす生き物なのです。単独で暮らして心が落ち着く、そういう生き物なのですよ。

そういう、生活スタイルというのを徹底的に尊重していかななくては駄目です。

同じ群れでも、チンパンジーの群れと、テナガザル。今、円山動物園もテナガザルはお父さんお母さんと子供と一緒にいますけども、これは良好になっています。

テナガザルの場合はお父さんお母さんと、その子供のいわゆる家族群、家族の群れとして暮らしている。これが普通なのです。

それをたくさん集めてみたり、1頭1頭で飼うのは、これは劣悪な動物福祉になってしまうのですね。

だから、とにかく基本はその動物の生活スタイルを守るという事です。

その次に大事な事は、やりたい事をさせる事です。

これは本当に重要な事で、例えば穴を掘る動物いますよね、プレーリードッグのように。

あれを、コンクリートの床の所にぽんと入れておいたって、基本穴掘って暮らす生き物を穴が掘れない状態に置くのは駄目でしょう。

そういう事を、なるべくその動物の生き様というものを反映したかたちで飼育していくというのが、我々のやっている、良好な動物福祉という事です。

(太細さん)

今、後ろ(スライド)にカメ類の展示場、ハミルトンガメとハウシャガメの例ですね、2つ出ています。こちらはいかがでしょうか。

## カメ類の展示場(飼育環境)

### ハミルトンガメ

河川や小沼などに生息する水棲カメで、水深の浅い止水域を好む



### ハウシャガメ

陸生のカメで半砂漠にある乾燥した林や岩場に生息する



## 動物園から考える札幌の未来

(小菅さん)

生息環境をいかに再現するか、なのです。写真だけで見ると見た目の再現です。ただ、実際に我々が動物を飼う時には、見た目だけの再現ではなくて、温度や湿度、壁の質、そういう事を全部計算します。

しかも生息地での日照時間、気温の変化、そういう事を可能な限り再現しようとする。そういうふうにして飼うのが、まさに良好な動物福祉を維持した飼育の仕方となっております。

なるべくそれらを、それぞれの動物ごとに、きちんと決めてやっていこうという、そういう取組みなのですね。

だから、これはなかなか、ここまでやったから良いという事にはならないです。常に動物にとって良い事と思われる事をやり続けなくてはならない。

例えば、食べ物ありますよね。動物園ですから動物の食べ物は全部動物園が用意します。

その時、毎日毎日同じ林檎と、バナナと、なにかを食べるといったら、みなさんだって絶対嫌になるでしょう。動物も一緒です。

自然界では、ものすごい種類の中から、彼らは最も良い状態のものを選択して食べていきます。

可能な限り、野生でオランウータンがどういうもの食べているか、リストを全部取り寄せて、その中で我々が提供出来る物は、この仲間だったらこの果物、この仲間だったらこの葉っぱ、というふうを選んで、しかもなるべく細かく切って隠し、動物が探し出すようにして、そうやって用意していくのですよ。

それによって、採食にもものすごい時間を使うのです、動物は。

野生では、昼間活動する動物は、朝から夕方までびっしり活動しますからね。暇なんかはないのですよ。

ところが動物園にいと、食べ物は全部用意してあげてしまうから、全部食べたならそれでもう終わりになってしまう。

そうすると退屈な時間が増える、これは劣悪な動物福祉なのです。

動物がやることをたくさん作る。それも動物が興味のある事をたくさん作る。やりたい事をやらせる。

そういう事をやりながら「あ、今日は朝目が覚めて、あっという間に1日が終わったな」「さあ、寝よう」で次の日、健康に目が覚める。こういう当たり前の日常を我々は提供する、し続ける。これが、良好な動物福祉の基本になっています。

(太細さん)

円山動物園では、ゾウ舎などは、まさに見てわかるようなものなのかな、と思ったのですが、いかがですか。

(小菅さん)

その通りですよ。

最近オープンした、ホッキョクグマ館とゾウ舎については、建物を建てる時からずっと動物福祉を意識して、取り組んでいました。

ホッキョクグマ、旭山動物園もそうですけど、日本中どの動物園でも大体コンクリートで雪と氷みたいな世界を作って、そこで飼っていますよね。

だけど、自然界のホッキョクグマは、夏になったらお花畑で寝ていますからね。

ここ（円山動物園）はちゃんとその事を考えて土を敷いて、花を植えているかどうかはわからないけど、その土の中に色んな食べ物を埋め込んだりしている、そしてクマは強い嗅覚でずっと探して歩いて。それで暇な時間を作らない、というやり方をしているのです。

ゾウもそうですよね。地面に食べ物なんかないですから。

動物園のゾウは地面に置いてあるものを食べますが、野生のゾウはほとんど木を食べていますからね。

だから鼻は常にこう上に向かっていているのですよ。円山動物園のゾウは、大体食べる時に鼻を上を上げてこうやって食べていますからね。

あれが、普通の野生の動物の暮らしと非常に近い動き、あの姿勢をとらず事がとても重要なのです。

食べ物が地面にあると下に向かって頭下がるじゃないですか。でも鼻を上を上げたら頭が上がるじゃないですか。この時、背筋がものすごく使われるのですよね。姿勢も、普通ゾウが平らなところにいたら、平らな背中なのですよ。

円山（動物園）のゾウには感心しますよ。頭の方が上に上がっている姿勢になっていますからね。

これはなかなかないです。しかも、それを維持するために、飼育係が小型の重機を使って砂に起伏を作るので、一生懸命。

そのようにして動物が自然界で暮らしている時と同じような状況を維持し続けるというのが、我々の一生懸命やりたい事です。

そういう事を見るだけでも結構、動物園は面白いと思いますよ。あ、こんな事もやってる、とか。

#### （太細さん）

そうですね。

私達も、野生の動物の習慣や、どのように暮らしているのかというのを、本当に目の前で見ることが出来るというところも（動物園の）良さですよね。

ありがとうございます。

続いて、遠井さんにお伺いしたいのですが、生物の多様性の損失の防止や、種の保全ということも、動物園や動物の福祉を考えていくうえで大事になってくるとは思いますけれども、種の保全が必要といわれているのは、どうしてなのかということをお教えいただけますか。

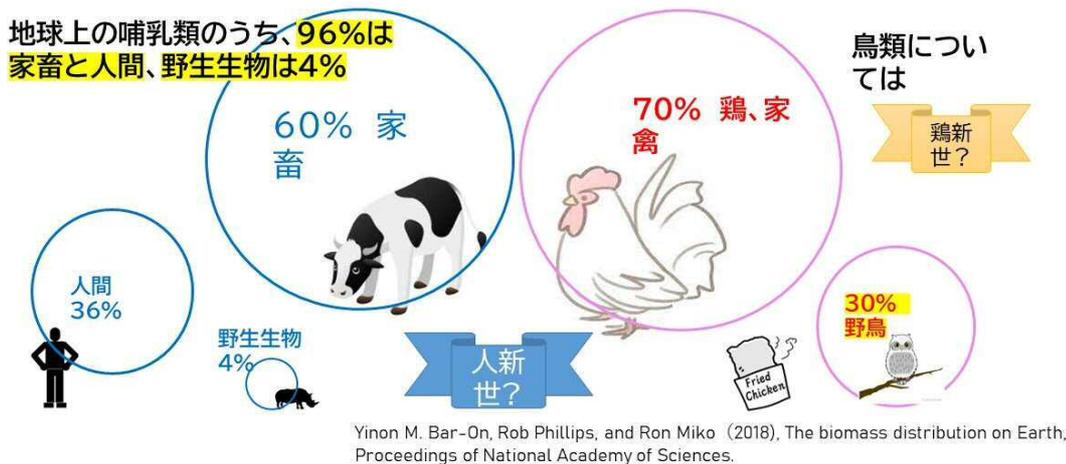
#### （遠井さん）

では、こちらのスライドをご覧ください。



動物園から考える札幌の未来

まず、動物園は野生動物を飼育している所だという話がありましたが、じゃあ野生動物は地球上に今、どれくらいいるのかという事で、こちら（スライド）をご覧ください。



## 動物園から考える札幌の未来

こちらは2018年に公表された有名な論文に書いてある事ですが、哺乳類のバイオマスのうち、人間と家畜で96パーセントを占めていまして、野生動物はわずか4パーセントだといわれています。

動物園に来ると野生動物がたくさんいて、私達は見に来る少数派なのですが、地球全体で見ると、96パーセントが私達と私達の仲間達で、野生動物は本当にごくわずかしかない、そういう意味でも、本当に非日常の場という事になります。

同じく鳥類にしても、70パーセントがニワトリで、地球上で最も個体数が多いのがニワトリである、といわれています。

こういう事がなぜ起きているかというのは、ご存じのように、人間がそういう状況を作っているという事で、大型哺乳類はかつてマンモスや、ナウマンゾウなど、更新世にはたくさんひしめき合っていたともいわれていますけれども、人間と生息域が重なっている所は、どんどん生息域が分断されていって、生息数が減っているそうです。

例えば、ライオンは、かつてはユーラシア大陸からアフリカ全域に生息していたらしいのですが、今ではサハラ以南の一部に点在している少数の地域と、インドの一つの森にしか生息していないという状況になっています。

キリンは比較的によりふれた動物とこれまでは考えられていたのですが、この30年間で数が半減していて、2019年にIUCN（国際自然保護連合）が、初めて絶滅危惧種に指定しています。

ワシントン条約でも、この年には初めて付属書Ⅱに掲載をするという事になりました。

このようになってきたのは、やはり人間が、生態系に目に見える形で不可逆的な影響を与えているという事です。

2000年にある地質学者が新しい地質区分として、人新世とかアントロポセン（Anthropocene）という考え方を提唱して、地質学の分野ではまだ確立はしていませんが、今非常に注目を浴びています。

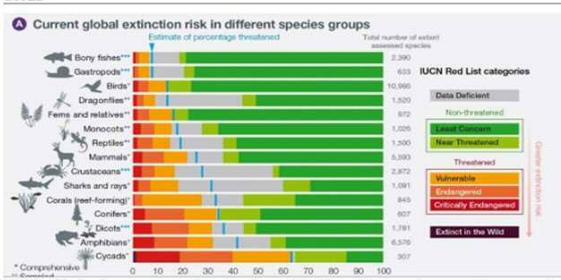
それくらい人の影響というものが、気候システムについても、生態系についても、地球に甚大な影響を与えているという事は広く知られるようになってきて、もし仮に将来の地質学者が、「現代の特徴的な化石はなんですか」というのを定めるとすると、恐らくはニワトリの養鶏場の骨じゃないかという事をいわれているくらいです。

それくらい野生生物は今、生息域を狭められて、それは主に私達人間の活動によってという事ですが、数が非常に減っているという状況が、まずここから読み取れるかな、というところです。

次にこちら（スライド）ですが、イプベス（IPBES）というのは、気候変動に関するIPCC（気候変動に関する政府間パネル）と同様に、科学と政策決定とを繋ぐための国際的なレビュー機関ですが、ここが2019年に初めての報告書を出しました。

# 1. 生物多様性の危機: IPBES報告書(2019): 絶滅のリスク(グローバル・レベル)

- ・1500年以降、680種の脊椎動物が人間活動で絶滅した
- ・推計100万種の生物が絶滅の危機に(第6の大絶滅時代?)
- ・過去1000万年平均の数十倍から数百倍の異常な速度
- ・特に危険! : 40%の両生類、およそ3分の1のサンゴ、サメ類、海洋哺乳類が絶滅の危機にさらされている



IPBES (2019): Global assessment report on biodiversity and ecosystem services of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services.

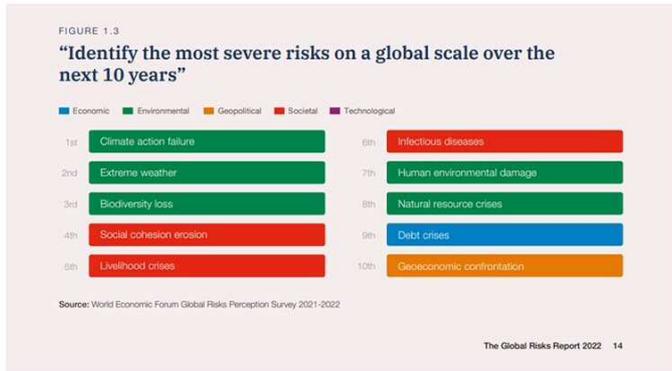
生物多様性と生態系の機能やサービスは、世界的に悪化している

人間の活動の影響で、かつてない規模で多くの種が絶滅の危機に瀕している...

## 動物園から考える札幌の未来

その中でいわれているのは、現在異常な速度で種の絶滅が進んでいるという事です。また、それぞれの種ごとの違いも分析されていて、全体としていえるのは、生物多様性とか、生態系のサービスとか機能が、非常に悪化しているという事が確認されました。この生態系サービスとか機能というのは、生物多様性というのは、例えば衣食住の素材として直接使えるとか、遺伝子で医薬品を作ったり、品種改良をしたりというだけではなく、例えば、森林は水源かん養とか、炭素吸収源となったり、と様々な機能を持っています。もちろん文化的、精神的な価値もあって、こういうものが全て失われていくのではないかとこの事が危惧されるようになってきている、という事です。

今後10年間の最も深刻なグローバル・リスクは何でしょうか？



トップ10のうち、5(半数)は環境リスク  
生物多様性の損失は第3位!

世界経済フォーラム(ダボス会議)が  
グローバル・リスク報告書2022

## 動物園から考える札幌の未来

こうした生物多様性の危機というのは、環境に関心を持っている人達だけではなく、これは(スライド) 経済関係の人達が集まる世界経済フォーラム、通称ダボス会議といわれるところのレポートなのですが、ダボス会議は毎年、1年に1回、グローバルリスク報告書を出していて、ここ数年、気候変動に加えて生物多様性もビジネスリスクになるという考え方がかなり定着してきています。これは今年1月に報告されたものですが、中期的な、10年くらいの規模で見た時のグローバルリスクのトップ10の内、半分が環境リスクです。生物多様性というのが第3位に入っていますが、これ以外の項目についても、気候変動も含めて、相互に関連しているので、そういう意味では、生物多様性とか、気候変動の危機というのは、私達のこれまでの社会とか経済のシステムを、もしかしたら掘り崩す可能性があるようなリスクになってきているという認識が、経済界の人達にも共有されるようになってきているという事です。

## Nature Based Solutions (Nbs)とは？



自然を守る、から  
社会を守るへ！

「社会課題に順応性高く効果的に対処し、人間の幸福と生物多様性に恩恵をもたらす、自然あるいは改変された生態系の保護、管理、再生のための活動」(IUCNの定義)

## 動物園から考える札幌の未来

生物多様性保全を、なぜ守るのですかという考え方も、固い話で申し訳ないのですが、変わってきました、自然を保護しようではなくて、私たちの社会と人間を守りましょう、そのための、生物多様性保全ですよという考え方に転換してきています。

Nature Based Solutionsというのは、わかりやすいところでいうと、津波対策で大きな防波堤を作るのではなくて、森林や湿地があれば、そちらの方が防災機能は人工構築物よりも、より低コストで、永続的に続くだろうとか、そういう事も含めて、社会の課題解決をするために、自然を保全するという考え方です。

ISCN（核不拡散・核セキュリティ総合支援センター）が提唱しているのですけれども、EU（ヨーロッパ連合）は既に政策文書に入れてありますし、国際的なレビュー機関や、今のポスト 2020 年目標の中でも、広く共有されている考え方です。

こういうふうに生物多様性保全というのは、もはや私たちの生活と経済の発展、それから人の尊厳とか、それを守るための重要な要素だと考えられてきているという事です。

### 2. 生物多様性保全のアプローチ

#### 2.1. 原産国(途上国)に利益を還元する

##### 生物多様性条約

第1条 この条約は、生物の多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用及び遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分をこの条約の関連規定に従って実現することを目的とする

- ① 生物多様性の保全
- ② その構成要素の持続可能な利用
- ③ 遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分

「持続可能な利用」とは、生物の多様性の長期的な減少をもたらさない方法及び速度で生物の多様性の構成要素を利用し、もって、現在及び将来の世代の必要及び願望を満たすように生物の多様性の可能性(potential)を維持することをいう(第2条)

第3条 諸国は、国際連合憲章及び国際法の諸原則に基づき、自国の資源をその環境政策に従って開発する主権的権利を有し、...

## 動物園から考える札幌の未来

その生物多様性保全をどうやってグローバルな国際社会の中で守っているかという事ですが、条約は 1992 年に、ちょっとさかのぼりますが、出来た生物多様性条約というのが一応、アンブレラ条約として、生物多様性保全の取組みの一番の土台になっています。

ここで注意しなければいけないのは、生物多様性保全はグローバルな、みんなにとって重要な価値だけれど、途上国に主に存在するので、原産国である途上国の利益を十分保護しなければいけないという考え方が取られているということです。

これは何重にも、途上国の利益保全とか、利益還元ということが含まれていまして、特に持続可能な利用とか、自国の資源を主権的権利として認めるということが明記をされているということが、その後の途上国の主

張にとっての大きなよりどころになっています。

持続可能な利用というのは、上手くいく時もある、例えば、アンデスのビクーニャという生物は、高級な毛皮を取るために飼育されているのですが、地域社会が保安全管理をしながら取引し、地域に利益も還元されて、ビクーニャの頭数も回復して、というサクセスストーリーもあるにはあるのです。

環境経済学の観点では、地域に利益還元をしながら保全をする事は、一律禁止よりもはるかに合理的だという考え方も根強くあるのです。

しかし、一方で、ある時期成功しても、地域のガバナンスが非常に弱いと、保安全管理の仕組みが崩壊してしまったり、それから、科学的、理論的には持続可能な利用が可能であったとしても、経済的なニーズが集中してしまうと、そこでバランスが崩れてしまったり、あるいは密輸とか、違法取引をする人達が出てくると、野生動物の取引が犯罪団体の資金源となったり、内戦で武力団体の戦費獲得の手段として使われたりというような事も出てきて、様々な法執行上コストもあります。

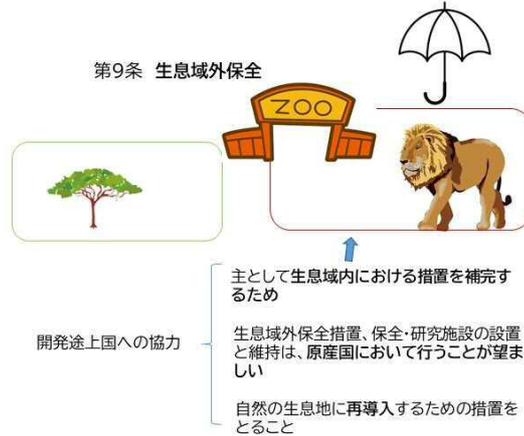
そういう事で、持続可能な利用が入る事によって、生物多様性保全の仕組みはいろいろな矛盾を抱えこんでしまうという面もあります。

## 2.2. 生息域内保全と生息域外保全

### 第8条 生息域内保全



### 第9条 生息域外保全



## 動物園から考える札幌の未来

生物多様性保全については、動物園との関係でいうと、8条に生息域内保全と、それから生息域外保全については9条がありまして、動物園のような生息域外保全というのは、基本的には生息域内保全を補完するものと位置づけられています。

また、先ほどから言っていますように、できるだけ原産国である途上国に対して、協力をして、生息域外保全は原産国で行うのが望ましいという事も、確認されているところです。

## 3. 野生生物の保全と動物福祉の統合？

原産国(途上国)は、希少な野生生物を自由に売買することができるか(持続可能な利用)?  
保護対象種を劣悪な飼育環境の動物園へ売却することは禁止されるべきか?



南部アフリカ諸国の生きたアフリカゾウの「妥当かつ受け入れ可能な目的地」



「生息域内保全プログラム又は種の自然の生息域及びアフリカの歴史的な生息域内で、野生の安全な場所」  
⇒アフリカ域外の動物園、サーカス等への取引は、緊急時を除き、原則として認められない(決議11.20(CoP18改正))

⇒生物多様性条約の採択(1992)以後、世界動物園協会(WAZA)が進めてきた動物園像の法定化の進展が背景?

こうした持続可能な利用を推進したい途上国と、保全しなければならないという国際社会のニーズが対立する問題としてよく出てくるのが、このアフリカゾウの問題です。アフリカゾウは1989年に国際取引が全面的に禁

止されています。

しかし、南部アフリカの諸国、南アフリカ、ジンバブエ、ナミビアなどは、自国の領域内ではある程度数が回復してきているので、むしろ住民とコンフリクトがあるから、一部を間引きして、取引をしたいと考えていて、それがワシントン条約では常に懸案となっていました。

ただ、象牙に関しては、犯罪団体の資金源になっているという考え方もありまして、主要各国がすでに国内市場を閉鎖していますので、取引の再開はほぼ難しくなっています。

しかし、生きたゾウを捕獲して動物園へ売るということは、まだ残されています、ここ（スライド画面）にあります、**「妥当かつ、受け入れ可能な目的地」**という概念の定義で、条件闘争が行われてきました。

2013年に、ジンバブエから中国に大量の子どものゾウを送っていて、非常に劣悪な飼育環境で、また曲芸をさせたり、という事が明らかになると、国際的に強い非難の声が上がりまして、2019年に、ここ（スライド）にありますけれども、第18回締約国会議で、野生で捕獲してアフリカ以外の動物園やサーカスに送る事は厳しく規制され、実質的には禁止に近い状態になるという事が合意されました。

これは動物園の存続にとっても大きな問題なので、アメリカや日本も反対はしたのですが、EUがとりなしをして、結局は種の保存のため以外にはそういう取引は厳しく規制するという事になりました。

このように、非常に議論が分かれる問題であったとしても、これまでお話ししてきたような動物園像というものが、ある程度定着する中で、例え多少困難があるとしても、こういう動物園像に基づいた取引の規制をしようというのが、今のコンセンサスになってきているのではないかと、いう事です。

### （太細さん）

世界的に見て、本当に毎年多くの生物が絶滅しているというのが現状、ということですよ。

そこで私達に何が出来るのかというところで、動物園も大きな役割を担っていると思うのですが、小菅さん、簡単に、円山動物園で種の保全に関わる部分、何か具体的に取り組んでいることがあれば、おひとつ伺いたいのですが、いかがでしょうか。

### （小菅さん）

たくさん種を、我々は保全して繁殖しているのですが、その辺は後ほどお話しします。

今、遠井先生の言った、アフリカゾウの問題については、その前に象牙の密輸の話もされていましたが、象牙の密輸は、日本ではいまだに国内市場が閉鎖されてないという事で、世界からバッシングを受けている状態ですけれど、それも多くの、国民の人達は、その事をあまり意識していないのです。

そういうのが結局こういう事態を起こしているのではないかと、そんな気がしますね。

多様性云々とか、生態系の破壊と言っているけど、それってみなさん気づきますか。

気づかないですよ、ほとんど。普通の生活をしていたら気づきません。

だけど、関心を持つと気づく。

例えば、私先ほど昆虫採集によく来ていたと言いましたよね。

大学時代もそうですけど、旭山動物園に行ってからね、僕オオムラサキが子供の時から好きだったので、ここにオオムラサキと一緒にいるゴマダラチョウというチョウがいるのですよ。

それを捕って、僕は乱獲はしませんからね、何頭かくらいしか捕らないけど。

それで、ここにお世話になるようになって、「久しぶりだな」と思って見にいったら、オオムラサキはね、辛うじて飛んでいました。

でもゴマダラチョウはいないのですよ。

動物園にも詳しい人がいますからね、「ゴマダラチョウが見えない」と聞いたら、「もう20~30年前からいませんですよ」と。

だから、みなさんゴマダラチョウ自体知らないでしょう。多分知らないと思うの。

あまり派手な蝶でもないから。

### （太細さん）

私は知らなかったですね。

### （小菅さん）

僕はここしか知らないから、ここに昔はいて今なくなったという事が分かるけど、太細さんだけではなく、多くの方は多分知らないですよ。

結局、多様性保全になにが必要と云って、知らないものは保全出来ないですよ。

ゾウの問題もみなさん、ゾウを知っているから「え、ゾウが！」という話になるのです。そこが動物園の最も重要なところで、様々な動物をここで生きた、本当の本物のゾウをここで見られる。見る、というよりもね、空間を共有できる訳ですよ、動物園は。こんな存在ないですからね。しかも、北極のホッキョクグマや、アフリカにいるいろいろな生き物、そういうものを全部一緒に一つの場所で見ることが出来る。こんなに違いがあって、なぜ地球上に違いがあるのかといたら、そこが長い長い地球の歴史の中で生じた、いろいろな違いでこうなってきたわけですよ。そういう事を学んで知っていかないと、多様性の保全はスタート出来ない。それから、動物園だからこれまではキリンやゾウなど有名な動物について一生懸命やってきましたよ。だけど、今は違いますよ。ニホンザリガニ、あれ子供の頃に僕、たくさん捕りました。円山公園の所で。今はあんまりいない。それを繁殖させて保全活動をしていこうとしてきましたが、今では繁殖整理も解ってきて繁殖に成功しています。去年 30 頭くらい生まれているはず。一昨年のもいますからね。動物園の中に、動物園の森という所があります。その森の向こうは、もう円山原生林ですからね。それが残っているというのが円山のすごいところ。ここの先人達はすごく意識が高かったと思う。その森に良い清流を通して、そこへ動物園で繁殖したザリガニを放して、そこで繁殖させる事が出来たら、みなさんと一緒になって、円山川をもう一回ザリガニのすめる川にやり直しましょうといえます。そういう足元にあるものも、やはり動物園はしっかりやってかなくてはならない。札幌市にある動物園ですからね。だから、ザリガニもやるし、オオムラサキもやるし、去年はニュースで見た人がいるかもしれないけど、ヒメトガリネズミの繁殖もしましたからね。トガリネズミって実はオオアシトガリネズミだったら、この辺にもたくさんいるのですよ。そういうものをしっかり見て、感激しないと、存在もその価値もわからない。それがいなくなって初めて、あれ、いなくなった、何か変わったぞ、という事に気づくのですよね。様々な生き物に関心を持ち続ける。その入口が、先ほど鈴木さんも言うてましたけど、動物園であって、それから自然界に行ってさまざまな動物を育てている生態系や多様性というのを、実際自分が実感するような事をやっていけば、そうすれば、人間はこのまま馬鹿な事しませんよね。どこかで反省していろいろな生き物と共に暮らそうとするはずですよ。自然を元に戻そうとしても、その時肝心の原資がなかったら、どうしようもないですからね。それは、国も出来なければどこも出来ない、結局それが出来るのはね、みなさん一般の人達だけですよ。だから、そここのところをやはり、動物園と一緒に考えて、多様性の意味だとかそういう事を考えながら、普段の生活の中にそういう意識を埋め込んでいくというのが重要だと思います。そのために、動物園はしっかりとやっていこうという事です。

### (太細さん)

本当に大事なことだなと思いました。様々な種類の動物を知るといってもありますし、その地元の動物や生き物を知る、まさにその入口になっているのが、この動物園というところですね。種の保全や、生態系を守っていく、生物多様性を続けていくためにも、動物園や周りの生き物に関心を持つというのが、大事になってくるのだなと本当にすごく感じましたね。

秋元市長、ここまでお話を聞いてみていかがでしょうか。

### (秋元市長)

いろいろな動物、生物が暮らす環境というのは、寒い所があったり、暑い所があったり、湿度が高い所、いろいろな所があると、先ほどからお話がありました。同じ生き物でもですね、群れで過ごすのが普通であったり、あるいは、単独でいるのが普通であったりという事で、環境に応じて変わってくる訳ですよ。それから、先ほどお話があったように、動物園でいろいろな動物を知ってもらう、わかりやすくいろいろな事を学んでもらう。今日も、お子さん達もいらしてますけど、小さなお子さんでも、そういう環境の違いや、生きている場所、あるいは暮らし方の違いみたいなものを、学んでもらうきっかけとして、やはり動物園が果たす役割というのは大きいと思います。それが、それぞれの理解をして関心を持つ事で、一人一人、みなさんが関心を持っていろいろな行動を取って

いただく事が、地球全体の環境保全という事にも、ひいてはつながっていく事になるのだろうと思いますので、そういう意味では、種の保全も含めて、動物園として、それをわかりやすく伝えていくという使命があると、改めて感じました。

**(太細さん)**

動物園を見ながら、どうしてこの動物にはこの施設があるのだろう、ですとか、なぜこの気温なのだろう、そういうところに一つ一つ関心を持って見ていくと、また違った視点で見られるのかなと感じました。ありがとうございます。

では、トークの後半ということで、ここからは、これからみなさんの動物園との関わり方や、伝えたいメッセージを伺っていきたいなと思います。

まず、佐藤広大さん。ここまでお話をしてきたのですけれども、感想や、印象に残ったところがあれば、教えていただきたいのですがいかがでしょうか。

**(佐藤さん)**

やはり、動物達の元気な姿は、すごく大事だと思うのですよ。

そういった観点から、僕のボランティア活動もスタートしまして、動物園との関わりもスタートした訳ですけれども、子ども達も元気な動物が見たいと思うのですよね。

そういう事で、毎年わたくしのあおぞらプロジェクトで、円山動物園に野菜を寄付させていただいております。



例えばとうもろこし 1000 本。あとカボチャや、スイカなど、共和町の國本農園さんとタッグを組んで、そして、僕自身も実際にトラックで足を運んで、運送会社のアップスさんのトラックに乗って、実際に野菜を採りに行って、その野菜を動物園に持ってきて。

北海道の野菜は、やはり国内でもトップクラスのブランドなので、そういった野菜を動物達に食べてもらおうと。ただ、この野菜に関しては、フードロスの観点からで、はね品という物があります。品質は間違いないのですが、店頭と並ぶ事が出来ない野菜。

**(太細さん)**

形が規格外だったりするものですね。

**(佐藤さん)**

そう、規格外の野菜ですが、これはちょっとやはりもったいないという事で、せつかくだから動物達に食べてもらおうという観点からフードロスの活動をしています。もちろん、今年も8月にとうきびを、また寄付させていただく予定なのですけれども、

この活動はみなさんで行えたら、なおいいなと思っておりますので、「うちの野菜使ってよ。」とか、声をかけていただければ、すごく嬉しいです。

そして、今後のプロジェクトなのですが、ゾウ舎の裏に、たい肥を作る施設があります。こちらですね。(スライド)



## ゾウの堆肥を使ったプロジェクト



(太細さん)

ゾウのたい肥を使ったプロジェクトという事ですね。お写真で持っているのがたい肥なのでしょうか。

(佐藤さん)

はい、そうです。

ゾウの「ふん」を肥料にするという事で、こちらは円山動物園の前園長の加藤さんから、「こういった事が出来るのだよ。」とお話を伺って、あおぞらプロジェクトでネクストステップにいきたいなと思い、実際にゾウのたい肥を、今年は 800kg 程運ばせていただき、國本農園さんに持って行って、畑を作っている段階です。

そのたい肥で作物を育てて、その野菜達を、また動物園に持って行って、動物達に食べてもらう、もしくは販売するというサイクルを、来年以降行っていこうと思っております。

こちらも、フードロスの観点からですけれども、たい肥を作る施設というのも全国でまれと伺っていますし、この活動自体も他ではやっていないという事で、僕自身もすごくチャレンジの段階ですが、そういった循環を作れたらいいなと思っております。

引き続き SNS などで、僕の情報を発信していますので、見ていただけたら嬉しいです。

あと、あおぞらプロジェクトとしては、やはり子ども達をメインに考えている団体なので、普段は。



オラウータンにプラドラムとラジカセ、CDを寄贈しました！！  
釧路動物園のにも同様のものを寄付しております。



こちらはですね(スライド)、ボルネオオランウータンにプラドラムとラジカセと CD を、今年寄付して写真を撮らせていただきました。

引き続き、動物園との関わりはそういった、寄贈だったり、野菜を届けたりと考えていますけれども、あくま

でも子ども達をメインにしている活動なので、今後は子ども達のイベントなども開催出来ればと思っております。

やはり僕はアーティスト、ミュージシャンなので、音楽を通して、動物園で子ども達、健常者の子ども達もそうですけれど、障がいを持った子ども達も交えて活動していきたいですし、実際僕も施設に出向いて曲を作ったりしています。

## あおぞらプロジェクト ～活動風景～

学校に伺い、歌を歌ったり、子どもたちの施設にオモチャをプレゼントしたり施設の子どもたちと歌を作ったりしています。



この子ども達も、「廣大さん、どうやったら歌手になれますか」とか、「一緒にステージ立ちたいです」とすごく真剣な眼差しで僕に言ってくれるのですよ。

この言葉をやはり無視はできないですし、どうにか地元のアーティストとして、彼らが音楽を楽しめる、発表できる場所を作って行きたいなと思っております。

そのステージがこの円山動物園でもあってほしいなという事で、いろいろ、今後企画して子ども達と歌を歌ったり、曲を作ったり、あくまでも子ども達がメインで、主役で、大人ではなく本当に子ども達が輝ける場所を僕は作って行きたいなと、思っております。

少し長くなってしまいますけど、あと1点だけ。

普段このあおぞらプロジェクトは、公園に時計を設置する活動もしております。

## あおぞらプロジェクト ～活動風景～

主な活動としては、札幌市内を中心に道内各地の公園に時計を設置しております。企業協賛やクラウドファンディング、募金活動やライブの収益が資金となっています。暗くなる時間も季節でバラバラなので、子どもたちの安全と親御さんの安心、そして、時間教育に直接つながるという観点から活動しています。



この時期、夜は8時まで明るい時もありますし、冬は4時で暗くなってしまう時もあります。そういったことで、公園に時計がたくさんあると、安心安全につながるなという事で、実際に札幌市内や北海道内の公園に時計を設置させていただいております。

子ども達にとって、公園はものすごく大事な場所なのですよ。

大人が思ってるより、公園は子ども達にとって、すごく特別な場所だから、今後公園のプロデュースだったりとか、例えばですけど、学校の行事で「こういった公園あったらいいな」みたいな絵を書いてもらって、それを参考に子ども達目線のスーパーな公園を作れたら最高だなという僕の一つの夢があるので、ぜひご相談させて下さい。よろしく願いいたします。

(太細さん)

本当に子ども達にとって、どんな環境だったら良いのか、どんな事が学べたり、どんな体験が出来たらいいのかな、というのが、佐藤広大さんの中心の活動になっていますよね。

その中でやはり、動物園で楽しむですとか、動物園がまた一つ経験の場になるというところが、きつとつながっていくのかなと伺っていて思いましたし、私は先ほどの、ゾウのたい肥のプロジェクト、本当に素晴らしいなと思ひまして、完全な循環農業ですよ。

いわゆる、使わなくなった物をたい肥にして、それで新しい物を育てて、それを私達がまた大地の恵みとしていただいて、という、本当に循環しているモデルだな、と思ひましたので、ぜひこの活動もこれから楽しみだなと思ひて注目しております。

佐藤広大さんの、このようなあおぞらプロジェクトですが、SNS、InstagramやTwitter、佐藤さんがメインのパーソナリティをつとめているFM NORTH WAVEのラジオでも、活動の報告ですとか進ちょく、聞けるという事ですので、ぜひみなさん注目して、何かご協力していただきながら、一緒に作っていただけたいなと思ひますよね。

(佐藤さん)

はい、ぜひみなさんと一緒に。よろしくお願ひいたします。

(太細さん)

それでは、鈴木なおさんにも、お伺ひしていきたいと思ひます。

今の佐藤さんの取組みを聞いて、感想などありましたら、一言聞きたいなと思ひますが、いかがですか。

(鈴木さん)

実は私達も、団体のボランティアの活動で、円山のゾウさんとは、よく活動させていただいています。

その点でも今回のこのイベントがあったからこそ、佐藤さんと知り合う事も出来て、動物園は人と人を結ぶ、いろいろな活動の拠点にもなるのだなと、今のお話を聞きながら、改めて思ひました。

私達も、やはり子ども達が生き生きと動物園で楽しんでくれている姿、すごく見ていて嬉しいので、何か学生団体として、ボランティアとして、関われる事があれば今後もご一緒していきたいなと思ひます。

(太細さん)

そうですね。本当に、輪が、仲間の輪が広がっていったらいいなと思ひました。

鈴木さんの団体の、これまでの活動というの、教えていただけますか。

(鈴木さん)

今、スライドに流していただいているのですが、これですね。ゾウ舎の中の清掃をしている。



### ゾウ舎清掃のオテツダイ風景



ゾウ舎のお掃除のボランティアをさせていただいたりですとか、（スライド）2枚目がゾウのうんちを使って、紙を作るお手伝いをさせていただいたり、あと（スライド）3枚目が、よく動物ガイドというのがあると思うのですが、それを聞いたお客様にアンケートを取って、アンケート結果を円山（動物園）さんにお渡しする事で、より、動物ガイドの質を向上していただこう、という形でお手伝いをさせていただいております。



### ゾウの糞を使った紙作り

### アンケート調査の活動

↳ ガイドの向上に役立てていただく



こういうお掃除などを、学生がやる事で、飼育の専門員さん達の時間が少しでも空いて、その空いた時間を先ほどの、動物福祉の向上にあててもらえれば、私達も楽しくボランティア出来ますし、動物園の動物達にもハッピーになる、という一石二鳥で、これからも関わらせていただければと思っています。

#### （太細さん）

鈴木なおさんの学生団体の活動も、Twitterのアカウントがございまして、そちらで進ちょく状況など更新しているという事です。

「命と自然の学生基地」という学生団体でございますので、気になった方、ぜひチェックしていただければと思います。

遠井さん、今ここまでお二人の活動を聞いていただきました。

ご感想と、本日のこのイベントのまとめをいただければと思います。

いかがでしょうか。

#### （遠井さん）

はい、今佐藤さん、鈴木さん、お二人の話聞いて非常に感銘を受けました。素晴らしいな、と。ついで私達は頭でっかちになりがちなのですけれども、自分の出来る事をいろいろ考えながら、創造的にされているのが素晴らしいな、と思いました。

実は私達の大学の学生、ゼミの学生も、今回こういう動物園の勉強をしながら、動物園と社会の関係っていうのをもう少し柔らかくいろいろな形で考えてもいいのではないかと、考えるようになっていきます。

さっきおっしゃったように、いろいろ障がいのある方もいらっしゃる。

たまたま新聞などを見ると、関東の動物園で、障がいのあるお子さんと親御さんを閉園後の時間に自由にきて下さいというのをやって、非常によかったと書いてらっしゃるのがあったり。

それから、今ウクライナからの避難民の家族を、支援団体が動物園に招待して、これも非常に喜ばれたという記事があったのです。

そういうのを見ていて、どんどん好きで自分から動物園に来る人達もいるんですけど、自分からアクセスしづらい人達にこそ来ていただけるよう、動物園の方が社会の多様性の側に歩み寄って、門戸を開いて、誰もが自由に訪れて、そこでいつでも何でも出来るという、そういう気持ちになれるような場所として、動物園を、もう一度この機会に、間口を広げていくのはいいのではないかな、と。思っております。

また、ぜひ私達の大学の学生ともご相談させていただければと思います。

#### （佐藤さん）

ありがとうございます。

#### （遠井さん）

そういう事も含めてなんですけども、もう一つはやはり、そういう事もやりながら、動物園と市民の関係がもっと密接になって、そして市民の側からも先ほどから言っているように、だんだん考え方が変わっていくと、動物園の条例も、動物園も、もっと育てていけるのだらうと思いますし、そういう事をするひとつの機会として条例をまだ育てなければいけないのかなと思いました。

あと一つだけ、すみません。

条例の中で、一つ足りなかったかなと思うのは、全ての人に開かれていますという事を、もっと明確に書いてもよかったのではないかな、と。

市民の責務というのは書いてありますけれど、動物園というのは全ての人に開かれています。

市民というのは、札幌市民だけでなく、世界市民としてとらえて、そういう事を明文で書いて、そのためにある存在ですという事を、次にもし改正する機会があったら、ぜひ入れていただきたいなと思いました。

### (太細さん)

ありがとうございます。

お時間も近づいて参りましたけれども、最後に小菅さんにお伺いしたいと思います。

今ですね、2人の活動を聞いていただきましたし、円山動物園がより良い動物園として、この先も進化し続ける、動物園条例もどんどん良くなっていくという話もありました。

この円山動物園が、より良いものとして進化していくために、私達市民が出来る事、改めてにはなりますけれども、ぜひメッセージとして一言いただきたいと思います。

### (小菅さん)

昔から僕はね、動物園に入った時から、動物園を見たらその都市の民度がわかるといわれたのですよ。

若い頃は何をいっているのか全然わからなかったけど、やはりそれは正しいと思うのですよね。

動物園は、動物園の人が勝手に作り上げるものではないですよ。この地域の人と共に作り上げるものですよ。

それから例えば、ゾウ舎を見てわかる通り、あのゾウ舎を建設する科学的な技術や、そういうものはかなり高度なものです。

どこでも出来るものではない、札幌だから出来るあの施設なのですよ。

これから、オランウータン館というのを今建設中なのですが、これもかなり科学技術をしっかりと駆使しながら、ボルネオの環境とか、多様性とか、それを全部維持出来るような施設にして、新しくオープンするという予定でいます。

やはりこれはこの地域だから出来る事、科学技術ばかりではなくて、ここに今日来ていただいたみなさんのこの想いが、この動物園を作っているのだと思います。みなさんにしか出来ない事は、やはり動物園と共に考えて行動しましょうという事ですよ。

先ほど遠井先生が言ってくれたように、動物園って特殊ですよ、絶対にあなたは入っちゃ駄目といわない所ですよ。後ろからでもいいし、360度どこからでも来なさいというのが、動物園。多くの人が動物園で、自分の切り口で見て十分なのですよ。

見ていただいて、何かを感じて、そして共に学んで、共に活動していければ、円山動物園はまだまだ、進化していけると思いますよ。

これから、やらなければならない事、やりたい事がたくさんあります。

ぜひみなさんの理解をしていただいたうえで、後押しをしていただきましたら、まだまだ円山動物園は大きく膨らんで、しかも進化していくのではないかと思います。

僕ね、夢ですけど、旭川でもそう思っていたのですが、市民の人にインタビューした時に、札幌市の誰に聞いても「あなたにとって誇りはなんですか」と聞かれた市民が、「それは円山動物園がある事ですよ」と言ってくれるのが、実は私の夢みたいなものです。

実はそれ経験しているのです、僕。

僕はほとんど海外に行くことがないのですが、日本動物園水族館協会の委員をしていたので、世界会議があってシンシナティに行ったのです。

そこで会議にももちろん出て、それ以外の時には、動物園ばかりでなく図書館とかいろいろな施設を見ていました。また市役所へも行っていろいろな人と話をしたのです。

「シンシナティはどんな所ですか」と聞いたら、「誇れるものが三つある」と言ったのです。「ひとつはシンシナティ・レッズだ、野球の。もうひとつは、これだけのコンベンションシティ、環境含めてアメリカ中ここにしかない。三つ目は、シンシナティ・ZOOだ」と言ったのですよ。このひとことを聞いただけで「ここに来て良かった」と思いました。

ぜひみなさんのお力で、本当に円山動物園が世界に誇れる動物園になる、条例の通りいけばまずなりますか

ら、なって、そしてそれがみなさんの誇りの一つになってくれれば、そこまで円山動物園も進化していければ、とっても僕は嬉しいな、と思います。 みなさん、どうかよろしくお願いします。

### (太細さん)

本日来ていただいたみなさまは、動物や、動物園が大好きという事で、こちらに来ていただいていると思いますけれども、この想いや、輪が、本当にどんどん、どんどん広がって、まさに札幌市の誇りといえば、円山動物園となる日まで活動していきたいな、と思いますね。  
ありがとうございます。

ここまでのお話を受けまして、最後に秋元市長からメッセージをお伺いしたいと思います。

### (秋元市長)

今日はいろいろなお話をお伺いして、またお話をすることが出来て、大変有意義な時間だったなと思います。

小菅さん、遠井さんから、動物園条例を制定した背景ですとか、今の国際情勢などもお話を伺いましたし、それから、佐藤さん、鈴木さんからは、日頃みなさんとして取り組まれているボランティア、動物園で随分ボランティアをいただいていたという事で、改めて、感謝申し上げたいと思います。

今日のお話の中で、ひとつみなさんと共有出来たのは、この円山動物園という場を通して、いろいろな方々がつながる、想いをつなげていく、それがまた、環境の問題であったり、自分達の生活を考えるきっかけになる場所だと改めて思いました。

そういう意味では、今、いろいろな希少動物が絶滅の危機というような状況がありますので、なかなか新たに動物を入れるという事、導入するという事も難しくなっています。

ゾウが典型的ですよ。

ゾウのはな子が亡くなった後に、市民のみなさんから、「またゾウを」という声がありましたけれど、今は群れで飼育をしなければならぬという事で、そうすると、施設もかなり大きな施設で、日常的にゾウが生活する環境を整えていなければならない。そういう動物園以外には、動物を譲っていただけでない、預けていただけでない、という事になりますから、国際水準でいろいろな環境を整えていかなければいけないというのがひとつあります。

また、それを支えていただくボランティアの方とか、市民のみなさんの活動があって、そこで初めて、動物園というものが生きていく。

そして小菅さんからお話があったように、市民のプライドになるような、そういった動物園につながっていくのではないかなと、そんなふうに思います。

今日のお話を、みなさんも環境の問題であったり、あるいは動物園の役割、それからみなさんとしてどういう行動が取れるのか、という事を、ご自身の事として考えるきっかけとしていただければ、幸いだなと思っております。

改めて、今日お集まりをいただいた皆様方、そして、YouTubeでご覧をいただいた方、ご登壇いただいた皆様に、全ての皆様に感謝を申し上げたいと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

### (太細さん)

まさに今、最後にお話があったように、動物園、そして私達市民と一緒に、この動物について考えるきっかけ、もっともっと持っていったらなと、そして、その窓口がこの円山動物園になるのではないかなと思います。

会場にお越しの皆様は、この後もまた、動物の様子を見ていただいて、「このお話の事ってここなのかな」ですとか、そういった楽しみ方をしていただくと嬉しいなと思います。

ご登壇いただいた皆様、そして秋元市長、本日はありがとうございました。

そして、今回ご来場いただきました会場の皆様、YouTubeでご覧いただきました皆様、本日は誠にありがとうございました。

このお時間でサッポロスマイルトークは終了とさせていただきます。ありがとうございました。